



## 平成27年12月期第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年10月30日

上場会社名 ソフトブレイン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4779 URL <http://www.softbrain.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 豊田 浩文  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 木下 鉄平 TEL 03 (6880) 2600  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	4,390	24.0	511	36.0	512	35.7	282	77.0
26年12月期第3四半期	3,542	16.1	376	52.2	377	54.9	159	28.1

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 313百万円 (48.2%) 26年12月期第3四半期 211百万円 (50.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	9.66	-
26年12月期第3四半期	5.46	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期第3四半期	4,148	2,769	62.9	89.15
26年12月期	4,145	3,011	63.0	89.34

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 2,608百万円 26年12月期 2,613百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
27年12月期	-	0.00	-	-	-
27年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年12月期の連結業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,400	9.4	650	14.3	650	12.3	300	18.7	10.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 - 社（社名）、除外 - 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期3Q	30,955,000株	26年12月期	30,955,000株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	1,700,000株	26年12月期	1,700,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期3Q	29,255,000株	26年12月期3Q	29,255,000株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、従業員向け株式交付制度「株式付与ESOP信託」に係る信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口）が所有している当社株式（150,000株）を含めております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1.（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結業績は、

売上高	4,390百万円(前年同期比24.0%増)
営業利益	511百万円(前年同期比36.0%増)
経常利益	512百万円(前年同期比35.7%増)
四半期純利益	282百万円(前年同期比77.0%増)

となりました。

当第3四半期連結累計期間では、主力事業である「eセールスマネージャー関連事業」と「フィールドマーケティング事業」を中心に売上高が好調に推移いたしました。利益面におきましても、業績が好調に推移した結果、営業利益、経常利益ともに増益となっております。また、連結子会社であるソフトブレン・フィールド株式会社の株式を追加取得したことにより少数株主利益が減少した結果、四半期純利益は大幅な増益となりました。

各セグメントの業績については以下の通りです。

なお、当第1四半期連結累計期間より、従来、「その他」に含まれておりました「出版事業」の量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載しております。また、同じく「その他」に含まれておりました「iPad等を活用した業務コンサルティング及び教育事業」において、「eセールスマネージャー関連事業」に付帯する要素が高まったため、「その他」から「eセールスマネージャー関連事業」に含めることといたしました。前年同期比については、前第3四半期連結累計期間の数値をセグメント変更後の数値に組み替えた上で比較を行っております。

## 1. eセールスマネージャー関連事業

スマートフォンやタブレット端末でも利用可能な「eセールスマネージャーRemix Cloud」の販売を中心に、「営業マン育成コンサルティング」をはじめとした営業コンサルティングサービスや、iPad等を活用した業務コンサルティング及び教育事業を提供するとともに、継続的な開発投資により、幅広い顧客ニーズに応えるべく努めております。当第3四半期連結累計期間においては、「使い勝手No.1」に向けたスマートフォンアプリ「eセールスマネージャーRemix Mobile」のデザイン刷新を2015年1月に実施いたしました。また、タブレット端末での使いやすさを向上させ、営業現場での詳細な活動報告が可能となる手書き文字入力プラットフォーム「mazec for Business」との機能連携や、より付加価値の高いサービスや利便性を提供することを目的として、株式会社パイブドビッツが提供する情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」との連携による新サービスを開始し、クラウド・プラットフォーム上にリード発生から受注までの全行程を自動的に一元化することが可能となり、業務効率化と正確なデータに基づくプロセス改善の両立を図っております。ならびに、ソフトバンクロボティクス株式会社とフランスのALDEBARAN Robotics SASが共同で開発する世界初の感情認識パーソナルロボット「Pepper」を新たなデバイスととらえ、「eセールスマネージャーRemix Cloud」と連携することで、「Pepper」を活用した新しい営業スタイルと価値を生み出す試みを開始しております。

今後も継続的な開発を行い、「使い勝手No.1」を目指したソフトウェア強化を行い、さらなる競争力強化・事業拡大を目指しております。スマートデバイスの普及が市場ニーズを大きく高めている状況を踏まえ、開発投資のみならず、組織体制の強化を目的とした人材採用や、販売促進・広告宣伝への投資を強化しております。また、営業の課題解決にフォーカスした企業向け研修の受注が増えてきております。

以上の結果、売上高2,205百万円(前年同期比12.3%増)、セグメント利益246百万円(前年同期比52.2%増)となりました。

## 2. フィールドマーケティング事業

主にフィールド活動業務及びマーケットリサーチ等のサービスを手掛けております。当事業では、フィールド活動業務のノウハウをもとに当社独自のWebシステムを構築し、全国で5.6万人を超える主婦を中心としたネットワークを構築するとともに、お客様のニーズに応じて、人材派遣をはじめとした多様なサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間においては、大型案件が順調に規模拡大を続けるとともに、新規案件の受注も着実に増えております。前連結会計年度に本格稼働した「ラウンダー人材バンク」サービスにおいても売上の拡大が続いております。

また、今後のさらなる事業拡大に向け、人材やシステムへの先行投資を積極的に進め、体制強化を図っております。

以上の結果、売上高1,724百万円(前年同期比46.6%増)、セグメント利益246百万円(前年同期比26.1%増)となりました。

### 3. システム開発事業

ソフトウェアの受託開発及びお客様のパッケージ開発・カスタマイズを中心にサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、開発案件が前年同期を下回り、売上高が減少した結果、セグメントでは損失となりました。

以上の結果、売上高341百万円（前年同期比5.8%減）、セグメント損失3百万円（前年同期は2百万円の利益）となりました。

### 4. 出版事業

ビジネス書籍の企画・編集・発行事業を行っております。当第3四半期連結累計期間では新規顧客からの受注が増えた結果、好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高180百万円（前年同期比46.5%増）、セグメント利益21百万円（前年同期比50.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の資産、負債、純資産の状況は、

資 産 4,148百万円（前連結会計年度末比 0.1%増）

負 債 1,379百万円（前連結会計年度末比 21.6%増）

純資産 2,769百万円（前連結会計年度末比 8.0%減）

となりました。当第3四半期連結会計期間末の財政状態の分析は、以下の通りです。

#### <資産>

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3百万円増加し、4,148百万円となりました。その主たる要因は、現金及び預金が151百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が119百万円、仕掛品が38百万円増加したことによるものです。

#### <負債>

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ245百万円増加し、1,379百万円となりました。その主たる要因は、支払手形及び買掛金が16百万円、短期借入金が49百万円、未払法人税等が26百万円減少したものの、長期借入金が210百万円、1年内返済予定の長期借入金が56百万円、前受金が65百万円増加したことによるものです。

#### <純資産>

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ242百万円減少し2,769百万円となりました。その主たる要因は、四半期純利益の計上により利益剰余金が282百万円増加したものの、連結子会社株式を追加取得した影響等で資本剰余金が288百万円、少数株主持分が236百万円減少したことによるものです。自己資本比率は、62.9%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、平成27年1月30日に公表いたしました平成27年12月期連結業績予想から修正しておりません。

なお、上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれておりません。そのため様々な要因の変化により、実際の業績はこれと大きく異なる可能性がある事をご承知おきください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等が平成26年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、  
当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等(ただし、連結会計基準第39項に掲げられた定めを除く。)  
を適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、  
取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が288,265千円減少しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,677,821	2,526,652
受取手形及び売掛金	630,591	749,873
商品及び製品	82,195	94,523
仕掛品	58,405	96,665
繰延税金資産	84,818	100,277
その他	62,070	87,394
貸倒引当金	△5,979	△9,127
流動資産合計	3,589,921	3,646,258
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	50,367	50,977
減価償却累計額	△30,317	△38,062
建物及び構築物(純額)	20,050	12,914
工具、器具及び備品	201,410	231,153
減価償却累計額	△161,867	△177,597
工具、器具及び備品(純額)	39,542	53,555
有形固定資産合計	59,592	66,470
無形固定資産		
ソフトウェア	305,927	297,264
その他	7,665	5,415
無形固定資産合計	313,592	302,679
投資その他の資産		
投資有価証券	2,500	2,500
差入保証金	44,890	60,966
長期滞留債権	40,576	41,865
繰延税金資産	132,416	67,118
その他	3,000	3,000
貸倒引当金	△40,576	△41,865
投資その他の資産合計	182,806	133,585
固定資産合計	555,991	502,735
資産合計	4,145,913	4,148,994

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	213,298	196,740
短期借入金	180,000	131,000
1年内返済予定の長期借入金	—	56,000
未払金	146,928	161,852
役員賞与引当金	—	15,861
未払役員賞与	17,876	—
未払法人税等	108,242	81,802
前受金	246,339	311,454
賞与引当金	23,920	37,125
返品調整引当金	17,275	12,855
その他	171,021	146,542
流動負債合計	1,124,901	1,151,233
固定負債		
株式給付引当金	9,510	9,369
長期借入金	—	210,000
その他	—	9,235
固定負債合計	9,510	228,604
負債合計	1,134,411	1,379,838
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	826,064	826,064
資本剰余金	616,734	328,469
利益剰余金	1,430,329	1,713,063
自己株式	△259,385	△259,385
株主資本合計	2,613,742	2,608,211
少数株主持分	397,759	160,944
純資産合計	3,011,501	2,769,155
負債純資産合計	4,145,913	4,148,994

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	3,542,109	4,390,364
売上原価	2,109,900	2,680,074
売上総利益	1,432,209	1,710,289
返品調整引当金繰入額	5,266	621
差引売上総利益	1,426,942	1,709,668
販売費及び一般管理費	1,050,431	1,197,744
営業利益	376,511	511,923
営業外収益		
受取利息	425	500
保険解約返戻金	—	741
補助金収入	600	—
違約金収入	—	448
為替差益	1,146	—
その他	139	268
営業外収益合計	2,311	1,958
営業外費用		
支払利息	853	1,063
為替差損	—	158
その他	71	—
営業外費用合計	924	1,222
経常利益	377,899	512,659
特別損失		
固定資産除却損	1,707	—
特別損失合計	1,707	—
税金等調整前四半期純利益	376,191	512,659
法人税、住民税及び事業税	122,160	149,066
法人税等調整額	42,333	49,839
法人税等合計	164,494	198,905
少数株主損益調整前四半期純利益	211,696	313,754
少数株主利益	51,931	31,019
四半期純利益	159,765	282,735

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	211,696	313,754
四半期包括利益	211,696	313,754
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	159,765	282,735
少数株主に係る四半期包括利益	51,931	31,019

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年5月1日開催の取締役会決議に基づき、連結子会社であるソフトブレン・フィールド株式会社の株式を追加取得いたしました。また、ソフトブレン・フィールド株式会社は、同年5月15日に開催された同社の臨時株主総会決議に基づき、自己株式の取得を実施いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が288,265千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が328,469千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	eセールスマネージャー関連事業	フィールドマーケティング事業	システム開発事業	出版事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,950,544	1,160,998	310,753	119,813	3,542,109	-	3,542,109
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,741	15,803	51,125	3,718	83,388	△83,388	-
計	1,963,286	1,176,801	361,879	123,531	3,625,498	△83,388	3,542,109
セグメント利益	162,090	195,724	2,309	14,360	374,483	2,027	376,511

(注) 1. セグメント利益の調整額2,027千円には、固定資産の調整2,272千円、棚卸資産の調整額△244千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	eセールスマネージャー関連事業	フィールドマーケティング事業	システム開発事業	出版事業			
売上高							
外部顧客への売上高	2,191,316	1,714,861	303,525	180,661	4,390,364	-	4,390,364
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,945	9,952	37,478	250	61,627	△61,627	-
計	2,205,261	1,724,814	341,004	180,911	4,451,991	△61,627	4,390,364
セグメント利益	246,720	246,833	△3,917	21,573	511,210	713	511,923

(注) 1. セグメント利益の調整額713千円には、固定資産の調整597千円、棚卸資産の調整額115千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来、「その他」に含まれておりました「出版事業」の量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載しております。また、同じく「その他」に含まれておりました「iPad等を活用した業務コンサルティング及び教育事業」については、「eセールスマネージャー関連事業」に付帯する要素が高まったため、「その他」から「eセールスマネージャー関連事業」に含めることといたしました。

これにより、報告セグメントを従来の「eセールスマネージャー関連事業」、「フィールドマーケティング事業」及び「システム開発事業」の3区分から、「eセールスマネージャー関連事業」、「フィールドマーケティング事業」、「システム開発事業」及び「出版事業」の4区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。